

上手に使おう 横浜の水
～健康と豊かな暮らしは蛇口から～

**「横浜市の水道事業の現状と今後の方向性」を
取りまとめたリーフレットを全戸配布します！**

本市の水道事業は、料金収入が減少する一方で、老朽化する施設の更新や耐震化が喫緊の課題となっています。日本初の近代水道である横浜の水道を将来に引き継いでいくために、現在、水道料金を改定することを検討しています。

このたび、市民の皆様「横浜市の水道事業の現状と今後の方向性」をご理解いただくことを目的に、リーフレットを作成しました。

10月～11月に行う水道メーター検針時に全戸配布します。

リーフレットの主な内容

- ① 老朽化する水道施設の更新・耐震化が喫緊の課題
 - ・浄水場や水道管など水道施設の多くは高度経済成長期に整備したため老朽化が進んでおり、更新・耐震化が必要です。
- ② 水道料金収入は大きく減少
 - ・平成13年度の789億円をピークに減少が続き、平成30年度は698億円と約90億円減少しています。
 - ・水道局では、これまで職員定数約900人の削減や浄水場の廃止などにより対応してきましたが、今後は災害対応等の観点から、こうした見直しをすることは困難な状況です。
- ③ 「口径別料金体系へ移行」「料金水準の見直し」を検討
 - ・現行の料金体系では、基本料金が一律790円/月（基本水量8㎡含む）です。
 - ・これを水道メーターの口径に応じて基本料金を設定する「口径別料金体系」へ移行し、基本水量を廃止することを検討しています。
 - ・あわせて、料金の増額改定を検討しています。

リーフレットのデータはこちらからダウンロードできます！

横浜市のウェブサイト上にデータを公開しています。

【URL】

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/sumai-kurashi/suidou-gesui/suido/suidoujigyuu/kentou/info/library.html>



＜リーフレットのイメージ＞
(A3 6つ折り)

お問合せ先

水道局経営部担当課長（企画調整担当） 大崎 敬一 Tel 045-671-3127